

**[成果情報名] 露地栽培で裂果が少なく高品質果実の生産が可能な夏秋トマトの大玉品種「麗月」**

**[要約]** 「麗月」は夏秋栽培向け大玉トマト品種で、従来品種と比較して裂果が非常に少なく高品質果実の生産が可能である。中間地、高冷地における夏秋栽培で「麗月」を用いると、約 7t/10a の A 品収量が期待できる。

**[担当]** 総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・野菜作物科・山崎修平

**[分類]** 技術・普及

-----  
**[課題の要請元]** 中北農務事務所

**[背景・ねらい]**

本県の中間地から高冷地は夏秋トマトの栽培が盛んに行われてきたが、高齢化による規模縮小等により生産量が大きく減少している。また、天候不順等により、簡易雨よけを設置しても、裂果が発生し果実品質が低下することに悩まされている。そこで、硬玉で裂果が少なく安定した品質・収量が維持できる大玉トマト品種について比較検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 品種「麗月」を用いると、A 品収量 7t/10a、A 品率 60%、可販収量 8t/10a 程度を期待できる（表 1）。
2. 「麗月」は夏季高温期（2018 年 7～8 月）、秋雨期（2018 年 9 月）でも裂果が極めて少なく、A 品収量も多い（図 1、図 2）。
3. 「麗月」の食味および糖度は「桃太郎 8」と比較して差は認められず、同等である（表 2）。
4. 「麗月」の 8 段果房の高さは約 170cm で、「麗夏」および「りんか 409」と同程度であり、収量性や作業性も同等といえる（表 3）。

**[成果の活用上の留意点]**

1. 多くの病害抵抗性を備えた品種であるが、長雨や台風後は病気の発生が懸念されるため、適正な防除体系で栽培する
2. 試験は北杜市明野町の標高 747m（高冷地野菜・花き振興センター）で行った。

**[期待される効果]**

1. 裂果が少なく安定した品質・収量が得られ、経営の安定が図られる。
2. 営農の継続、産地の維持に寄与できる。

[具体的データ]

表1 果実品質および収量<sup>z)</sup>(2018年)

品種	A品重量	B品重量	規格外重量	総重量	A品率	総裂果率	A品1果重
	(kg/10a)				(%)		(g)
麗月	7,134	1,405	3,557	12,096	59.0	6.0	180
麗夏	4,173	1,982	4,242	10,397	40.1	20.3	189
りんか409	3,395	1,509	6,492	11,396	29.8	36.6	192

z) A品: 虫害、障害等が無く110g以上のもの B品: 110g以上で軽微な傷等のあるもの 規格外: 出荷不能な規格外のもの

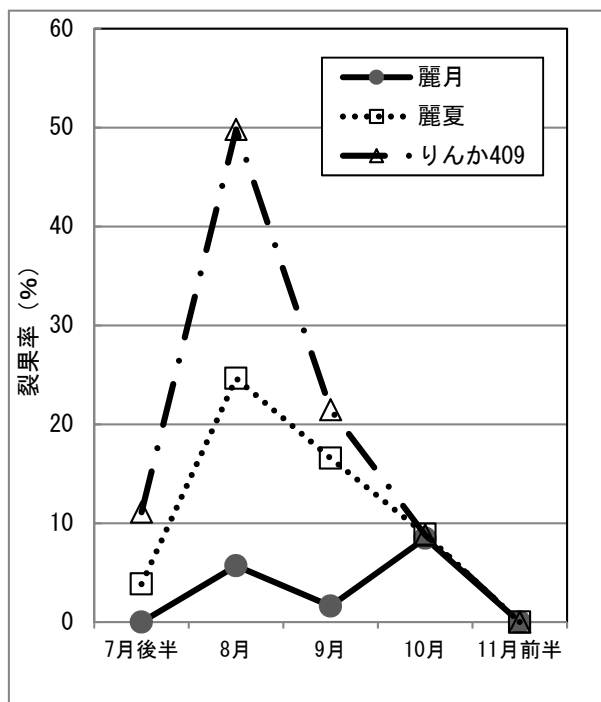


図1 裂果率の推移 (2018年)

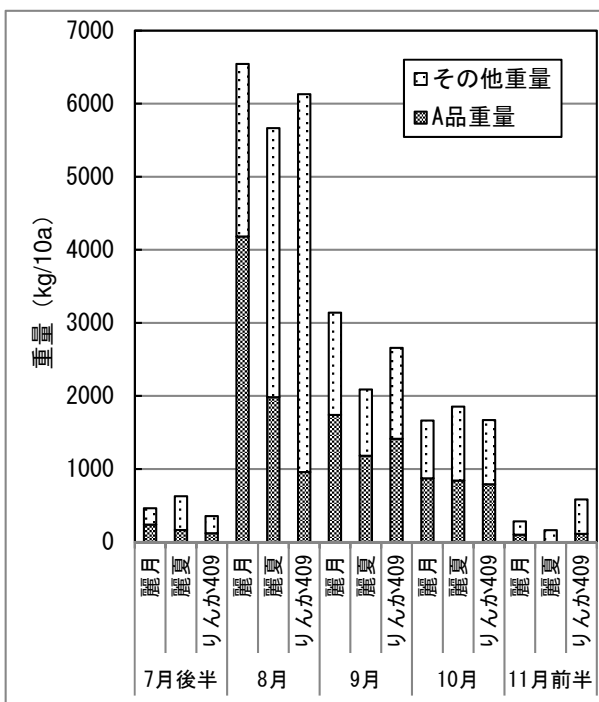


図2 各等級収量の推移 (2018年)

表2 各品種における食味および糖度の比較 (2018年)

品種	食味 <sup>z)</sup>				糖度 <sup>y)</sup> (Brix:%)
	甘み	酸味	硬さ	総合	
麗月	2.7	3.2	3.3	2.7	5.7
麗夏	2.7	2.9	3.4	2.7	5.6
りんか409	2.6	2.9	2.8	2.7	5.4
桃太郎8 (対照)	—				5.5

z) 対照: 「桃太郎8」を3とし、甘み: (強5~1弱)、酸味: (強5~1弱)、硬さ: (硬5~1軟)、総合: (良5~1不良)、(n=16、調査日 2018/9/12)

y) 糖度は8月下旬~9月上旬の収穫最盛期の果実の平均値

表3 各品種の8段果房の高さ

品種	高さ <sup>z)</sup> (cm)
麗月	167
麗夏	173
りんか409	158

z) 2018年の調査による

[その他]

研究課題名: 夏秋トマトの高品質化・高機能化・省力化栽培技術の開発

予算区分: 県単 (重点化) 研究期間: 2017~2019年度

研究担当者: 山崎修平、島田彬、萩原裕一